上海博物館展

―中国文人の世界―

2003年6月3日【火】―― 7月13日【日】

真賞斎図巻　明　文徴明　嘉靖28年

景徳鎮窯緑釉秋葉式筆掻　清・康熙年間

休 館 日：毎週 月曜日（6月9日・16日・23日・30日・7月7日）
開館時間：午前9時－午後5時（入館は4時30分まで）
入 館 料：一般 300(240)円　小・中学生 100(80)円
（　）内は団体10名以上・65歳以上及び障害者の方は無料・土曜日は小中学生無料
講 演 会：6月22日（日）午後2時～
「明時代の文人画」湊 信幸氏（東京国立博物館 学芸部長）

主　　催：渋谷区立松濤美術館・読売新聞東京本社・美術館連絡協議会
後　　援：中華人民共和国大使館
協　　賛：花王株式会社

渋谷区立松濤美術館

〒150-0046 東京都渋谷区松濤2-14-14　TEL.03-3465-9421
交通案内：JR渋谷駅下車 徒歩15分／京王井の頭線 神泉駅下車 徒歩5分

景徳鎮窯粉彩人物図筆筒　清・乾隆年間

氷紋梅花玉版箋　清・乾隆年間

鄧奎製紫砂金彩壺　清・十九世紀

高鳳翰銘田田端硯　清・雍正五年

景徳鎮窯粉彩書式糊盒　清・乾隆年間

中国には、文人と称される知識階層がありました。彼ら文人は、儒教的教養をもち、詩文を作り、そして、何よりも藝術に深い関心を寄せていました。

本展では、上海博物館所蔵品の中から、文人たちが日々を送った園林やそこでの雅集、琴や茶を楽しむ優雅な趣味的生活を描いた作品、脱俗の理想的生活を伝える様々な山水図、その精神の有様を示す墨梅や墨竹、文人の肖像、文人同士の交遊を示す書蹟などの明・清の書画40点、そして、彼らの藝術的日常生活を彩った文房四宝と称される筆墨紙硯をはじめとする各種の文具、古琴や茶具などの工芸品51点を陳列いたします。これらの作品を通して、中国文化の担い手であった文人に対する理解が深まり、さらに、中国文化の本質に近づくことができるのではないかと考えます。

講演会
6月22日(日) 午後2時～
「明時代の文人画」
湊　信幸 氏(東京国立博物館 学芸部長)

ギャラリートーク
6月21日(土) 午後2時～
7月5日(土) 午後2時～

美術映画会
6月15日(日) 午後2時～
中国映画「杜十娘」
7月6日(日) 午後2時～
「漢詩紀行より　蘇東坡と王安石」
「京都の魅力より　京の行事」

美術相談会
6月29日(日) 午後2時～
西嶋俊親(洋画)　舟橋淳一(水彩画)
7月13日(日) 午後2時～
戸田康一(日本画)　新出紀久雄(水彩画)

浮彫竹虫象牙臂擱　清時代

渋谷区立松濤美術館　東京都渋谷区松濤2-14-14
TEL：03-3465-9421
JR渋谷駅下車 徒歩15分／京王井の頭線 神泉駅下車 徒歩5分

草書双壽詩　清　傅山　制作年不詳